

由へ双方とも小谷を退收。退陣せんことを構う。新倉野の柴田稻
 葉と火水小谷にて戦ひ。浅井長政軍使のりて。河邊收束
 べしと意を送りたる小谷。探り小退りたるが柴田稻葉も退散せ
 ず。退散探りしを退軍せり。浅井の両弟織田計四將引退
 して戦損を幾何ぞと將檢する小浅井朝倉小二百余騎織
 田方小の二百余人常敵もこま小准下りたる。然る小本下藤吉
 舟の今日款計一勇士群小秀へ捲らき。尋常ありを心
 懸り日探野足先方のあたる。近くをこまて竊ひ視る。こま
 當小敵を藏しこま。面態楚と視認らる。退陣しともこの事。心
 掛りたる。由へ間者せり。此を存する小日探野足方の軍小
 中。松坂甚内といふ者あり。實否を推て告ぐる小を御安途

び。たきとも。浩る勇士を謀く。礼軍中小戦没さる。いと憾む。足元
 備小谷。万望。深をも將佐小せん。と只願ふ。支とせらる。たり

繪本豊臣勲功記四編卷之二終

豊臣記四編卷之二

廿一